



關東地方

神奈川縣下瀧南大橋架橋

進抄

瀧南觀光道路としての神奈川縣下馬入川河口に架する瀧南大橋は總工費五十萬圓で橋長六五五米、幅員八・六〇米のゲルベ式鐵筋コンクリートの永久橋と爲すこととなり、兩端には華麗な照明燈を設くるの外中間部に十八個の照明を設置し、橋前には五センチの鋪裝をなし、觀光橋としては縣下稀に見る所で、十月頃には落成する見込である。

交通地獄に大手入れ

地方通信

神奈川縣では自動車の氾濫から交通の幹線である府縣道の改築を焦眉の急務と感じ

橋員が狹隘で曲線、勾配共に自動車交通の最難所と見られ、而かも交通量の最も多い十字路十ヶ所を選び一大改良を施すこととし、其工費二十萬二千圓を投する其箇所は

厚木藤澤線高座郡海老名村、延長八〇〇メートル、有効幅員六メートル(一〇、〇〇〇)

△國府津松田線足柄下郡田島村、延長五六〇メートル、幅員五メートル五(二〇、〇〇〇)

○△都田下大崎線都筑郡中川村、川和町延長二、〇〇〇メートル、幅員四メートル五(二〇、〇〇〇)

△日連伊勢原線愛甲郡宮ヶ瀬村、延長二〇〇〇米、幅員四メートル五(二〇、〇〇〇)
△小田原御殿場線足柄下郡足柄村、延長三〇〇〇メートル、幅員九メートル

(一五、〇〇〇)△箱根處鶴線下郡湯河原町、延長二三二メートル、幅員五メートル五(三五、〇〇〇)△厚木八王子線、愛甲郡依知村、延長五〇〇メートル、幅員六メートル(一〇、〇〇〇)△宮浦澤戸塚線、鎌倉郡六會村、大正村、延長一、〇〇〇メートル、幅員五メートル五(二〇、〇〇〇)△横須賀三崎線、横須賀市佐野町、延長三〇〇〇メートル、幅員一一メートル(二七、〇〇〇)△戸塚伊勢原線、高座郡有馬村、相川村、延長五九〇メートル、幅員四メートル五(三五、〇〇〇)である。

神奈川縣下交通路混迷救濟の施工

神奈川縣では縣内の十字路丁字路に方向標の設備なく甚しく交通上の不安を感じしめたが、今度新に百五十ヶ所の丁字路、五十二ヶ所の十字路に道路方向標を設置することに決定した。其方向標は縦六〇センチ横一メートルの白色板でその個所から最寄の主要地點と距離を記入したもので、横須賀四、松田二、大磯二〇、中野二六、藤澤三二、小田原二六、厚木五四、川崎二九、

の割當である。

東山地方

岐阜縣南濃大橋の竣成

岐阜縣海津郡海西村宇野寺地内長柄川に架設の南濃大橋舊名野寺橋は工費三十萬圓で一ヶ年の歳月を費し架橋中であつたが、去一月下旬竣工した。實に縣下稀なる長橋である。

東海地方

三重縣伊勢の觀光道路の

改修

三重縣道宇治山田鳥羽線改修事業は愈々實施の議を決した。同改修路線は總延長一萬五千六百米（内既改修部分三千三百米、幅員七米（内有効幅員六米）で自動車が樂に行き違へることが出来る二重路線で全部を本格的鋪裝する計畫、路線は現在路線と變更の最も大きいところは鳥羽入口の燒飯坂

の勾配現在八分の一の峻険を避けて海岸線を探ることとした點である。鐵道電車の踏切平面交叉現在七ヶ所あり、層々慘事を生じたに鑑み二ヶ所をなくしその他の三ヶ所は高低交叉として交通の安全を期する。同線が完成の上は明粧されたドライブ・ウェイとして日本唯一の國際的觀光道路となるであらう。

中國地方

鳥取縣道路保全國の表彰

鳥取縣では恒例に依り紀元節の祝日午後道路愛護の治水施設保全國に對し表彰式を舉行した。其被表彰團中道路に關係あるものは八頭郡丹比村道路愛護治水施設保全會同散岐村道路愛護治水施設保全會、同池田村道路愛護治水施設保全會、西伯郡高麗村道路愛護會、日野郡八郷村道路愛護會、東伯郡高城村道路愛護治水施設保全會、八頭郡智頭町山形道路愛護治水施設保全會、同佐治村道路愛護治水施設保全會、同智頭町土師道路愛護治水施設保全會、同西郷村道

路愛護會、同智頭町那岐道路治水愛護會、東伯郡北谷村道路愛護治水施設保全會、八頭郡下私道路愛護治水施設保全獎勵會、岩美郡宇倍野村道路治水愛護團、西伯郡夜見村道路愛護治水施設保全會、日野郡石見村道路愛護治水保全會、八頭郡山郷村道路愛護治水施設保全會、東伯郡下郷村道路愛護治水施設保全會、八頭郡安部村道水愛護會、同賀茂村道路愛護治水施設保全會、西伯郡天津村道路愛護會、日野郡黒坂町道路愛護治水施設保全會、西伯郡根雨町道路愛護治水施設保全會、八頭郡富澤村道路愛護治水施設保全會、東伯郡伊勢崎村道路愛護治水施設保全會、日野郡溝口道路愛護治水施設保全會、八頭郡八東村道路愛護治水施設保全會、日野郡山上村道路愛護會、西伯郡渡村道路愛護治水施設保全會、氣高郡逢坂村道路愛護會、西伯郡福生村道路愛護會同日吉津村道路愛護治水施設保全會、同大幡村道路愛護治水施設保全會、東伯郡灘手村道路愛護會、同上郷村道路愛護治水施設保全會、同旭村道路愛護治水施設保全會、西伯郡手間村道路愛護治水施設保全會、日

野那二部村道路愛護治水施設保全會、同津澤道路愛護會、東伯郡市勢村道路愛護治水施設保全會、八頭郡船岡村道路愛護治水保全會、氣高郡神戸村道路愛護治水施設保全會、同日置村道路愛護治水施設保全會、氣高郡神戶村道路愛護治水施設保全會、東伯郡竹田村道路愛護治水施設保全會、同山守村道路愛護治水施設保全會、西伯大國村道路愛護治水施設保全會、同大郡山村道路愛護會、東伯郡花見村道路愛護會、日野郡江尾村道路愛護治水施設保全會、西伯那幡鄉村道路愛護治水施設保全會、八頭郡河原町道路愛護治水施設保全會、西伯那大和村道路愛護治水施設保全會、東伯郡舍人村道路愛護會、日野郡多里郡道路愛護治水施設保全會、東伯郡下北條村道路愛護治水施設保全會、同矢送村道路愛護治水施設保全會、日野郡日野村道路愛護治水施設保全會、東伯郡由良町道路愛護治水施設保全會、氣高郡松保道路愛護會、同小鷲河道路愛護治水施設保全會、同勝部村道路愛護治水施設保全會、八頭郡上私都村道路愛護治水施設保全會、同若櫻町道路愛護治水施設保全會、西伯郡法勝寺村道路愛護治水施設保全會、東伯郡上北村道路愛護治水施設保全會、

全會、岩美郡東村道路愛護治水施設保全會、東伯郡三徳村道路愛護治水施設保全會、同社村道路愛護治水施設保全會、八頭郡國英村道路愛護治水施設保全會、日野郡日野上村道路愛護會、岩美郡小田村道路愛護會、八頭郡社村道路愛護治水施設保全會、外百十五團體。又道路愛護優良小學校、西伯郡渡報徳健兒團、同大條津愛勞少年團、西伯郡大山少年團、同和田少年團、同外江少年團、日野郡山上進修少年團、東伯郡市勢少年團、日野郡江尾江陵少年團、八頭郡山郷小學校、東伯郡北谷愛護少年團、八頭郡山形第一小學校、東伯郡下修道少年團、四伯郡彦名小學校、八頭郡池田小學校、同土師小學校、東伯郡三朝報徳少年團、日野郡俣野小學校、岩美郡成器小學校、八頭郡殿小學校、西伯郡富益少年團、八頭郡菩提小學校、西伯郡縣少年團、同中濱小學校少年團、日野郡根雨少年赤十字團、東伯郡高坂小學校道路愛護奉仕會、西伯郡大幡少年少女團、東伯郡上北條小學校少年團、八頭郡丹比小學校東伯郡成美少年團、日野郡溝口少年團、西伯郡高麗少年團、同餘子少年團、八頭郡社小學校、同船岡小學校、日野

郡日光小學校、同日野村安井少年團、東伯郡逢東少年團、氣高郡小鷲河小學校外十五團體である。

岡山縣下東山峠の改修工

事の進行

岡山縣で總工費を投じ昭和六年來六ヶ年繼續專業として工事中の岡山—西大寺間産業道路のうち、殘された東山から嶽間千二百米はこのほど着工、昭和十年および十一年度工費六萬圓をもつて本年度内に完成することになつたが、問題の東山峠の頂上は約七米切り下げられることになつた。これによつて岡山—西大寺間十二キロは幅員七米五〇の直線路によつて程ばれ、旭東二郡産業の大動脈たるばかりでなく、バス運轉の時間短縮によつて沿線一帯は岡山市内同様の交通文化に惠まれることになつた。

四國地方

高知縣下の道路愛護會發會式

高知縣に於ての道路愛護會は漸時普及し各郡内に於ても續々其設立を見るに至つたが、過日下川口村外三ヶ町村で發會式を舉行した、即ち一月二十五日幡多郡下川口村、翌二十六日は同郡三崎村二十七日は安藝郡安藝町三十日には土佐郡鏡村西部でも郡知事諭告の精神を汲み「我等の道路を愛しませう」のスローガンをかゝりて愛護會の創立を見るに至つた。

九州地方

福岡縣失救事業費配當額

の決定

福岡郡では昭和十一年度失業應急土木事業費の配當額と施工箇所を決定した、其箇所は門司市内柄杓田—大里線、浦中—大里線、白野江—門司線、苫松市内芦屋—苫松線とし事業費二十一萬七千圓、努力費六萬五千圓で延人員七萬人の失業者を救済することとなつた。

福岡縣功勞者の表彰

福岡縣では紀元節の佳節に自治、教育事業、警察、消防、衛生、社會事業、商工、農業其の他各種の農村事業に盡瘁し、功績顯著なる者及多年納稅義務の完納に努め、他の模範とするに足るべき特殊團體併に個人に對し其の功勞を表彰した、其の内土木功勞者は鞍手郡中村道路愛護會である。

八幡市の登山道路改修着工

福岡縣八幡市では昭和十年度失業應急事業の裏八幡聯絡道路改修着工式を一月三十一日舉行した、此道路は秀峯帆柱山への登山道路とし、工費五萬千圓、延長五千米、幅員五米である。

佐賀縣の功勞者表彰

佐賀縣では二月十一日の佳節を卜し、節婦、孝子、自治、納稅事務、教育、實業、社會事業等の功勞者及優良團體の表彰式を舉行した、其の内土木事業功勞者として春振村八谷五郎、湊村坂本健次郎、大町村三上透三氏が選定せられた。

朝鮮地方

平南の道路橋梁大改修

平安南道の道路網は大體完成したので、道當局は改主建從主義に依り今後は道路面の改修及橋梁の修築に全力を傾くこととなり、昭和十一年度は地方振興土木事業として工費二十二萬圓を以て一二等道路十六ヶ線橋梁十八橋を改修することに決定した。

慶尙南道の道路鋪裝工事

全朝鮮のトップを切つた慶尙南道の簡易鋪裝工事は昭和十年一、二等道路十線九十五キロ、三等道路八線十五キロ計百十キロを完成し、全鮮にトップを切つて模範道路建設に氣を吐き遠輸交通界に寄與するところ多く産業開發上好評を受けてゐるが、當初の計畫たる、百二十五萬圓案に依る總延長六百二十キロ中殘着手五百二十キロは昭和十一年度以降可及的速かに達成の方針である。